

第Ⅱ部 総括・整理

第7章 生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)

本章では、一般高齢者及び要支援者・事業対象者への調査結果を基に、日常生活における生活機能や社会参加の状況を把握するとともに圏域ごとにその傾向を整理している。

1. 生活機能

(1) 運動器の機能低下

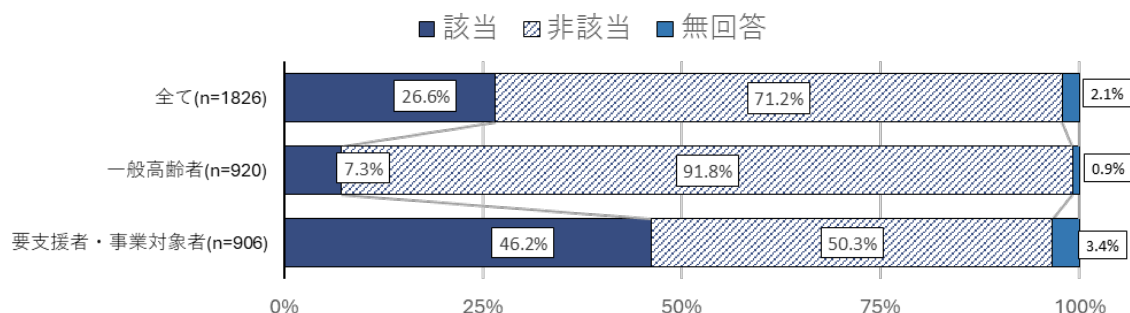
国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、5 項目のうち 3 項目に該当する人を「運動器の機能低下」のリスク該当者として整理した。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15 分位続けて歩いていますか	できない
過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある 1 度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である

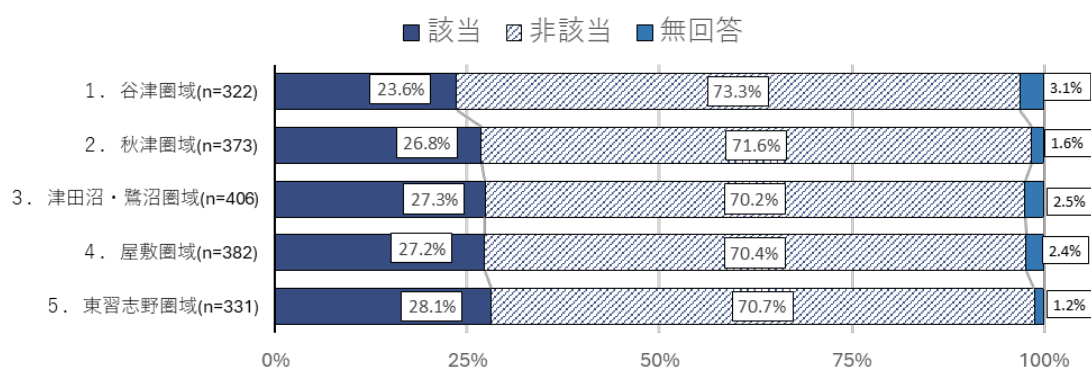
【調査区分別】

「運動器の機能低下」のリスク該当者は、全体で26.6%となっている。調査区分別に見ると、要支援者・事業対象者で該当が46.2%と、一般高齢者よりも38.9ポイント高い。



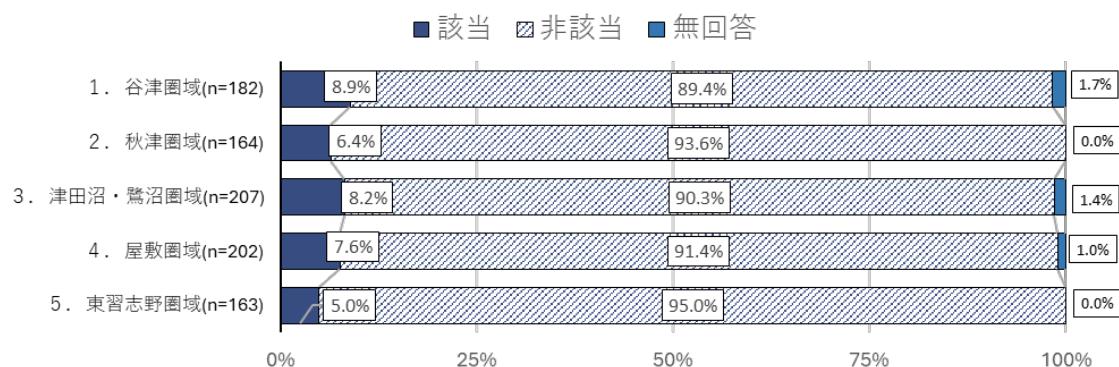
【圏域別】

圏域別で見ると、谷津圏域がわずかに低いものの、いずれの圏域も大きな差はみられない。



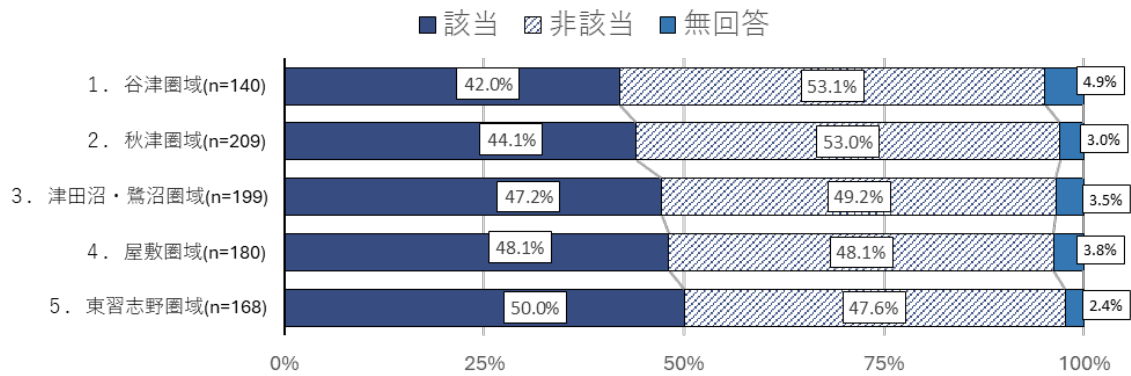
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、該当者はいずれの圏域でも1割弱である。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域で該当者の割合がやや高い。



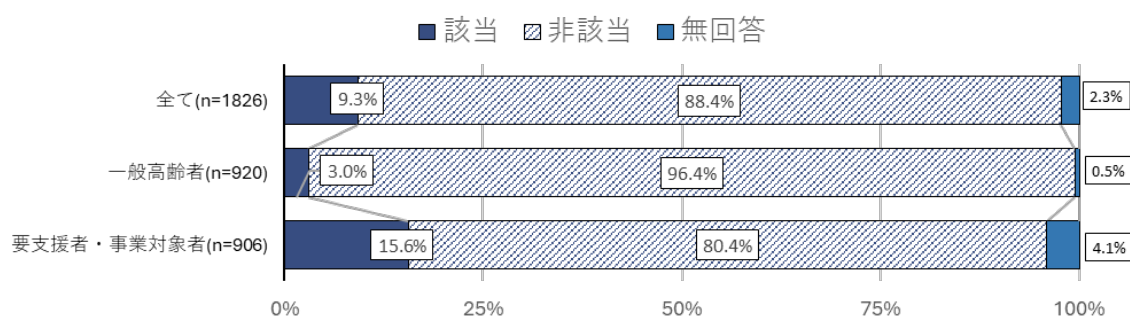
(2) 閉じこもり傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を閉じこもり傾向のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない 週1回
令和6年と比べて外出の回数が減っていますか	とても減っている 減っている

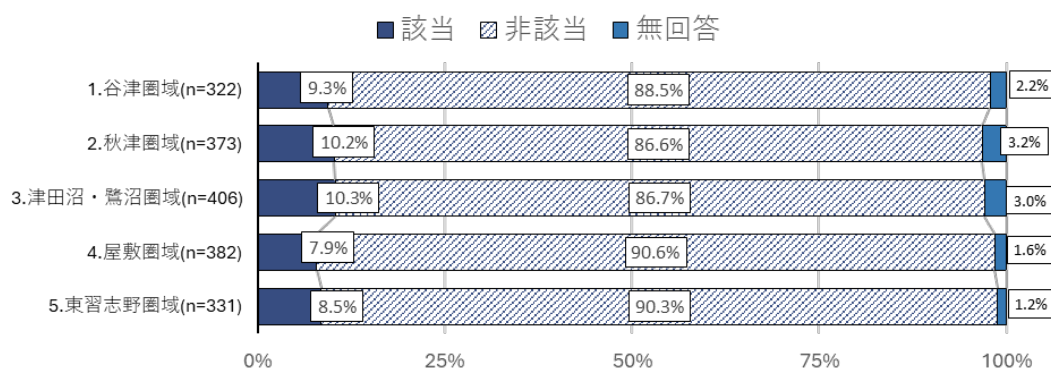
【調査区分別】

調査区分別に見ると、要支援者・事業対象者で該当者の割合が高く、15.6%となっている。



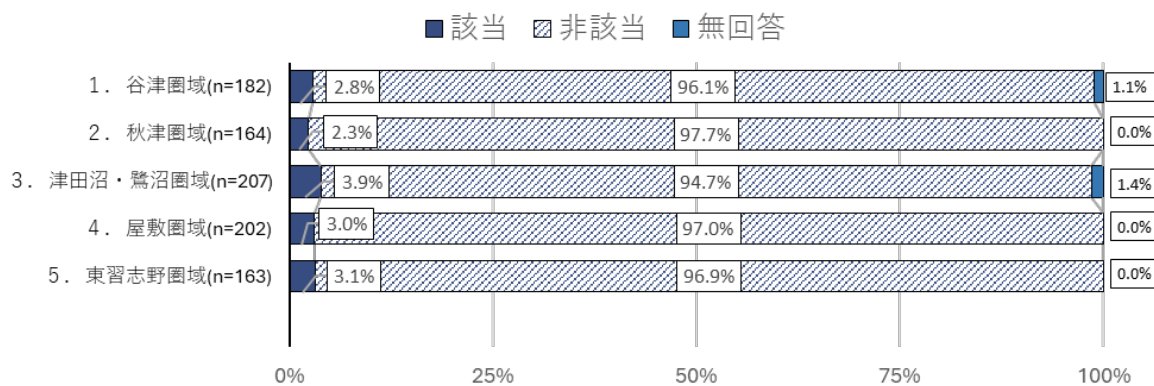
【圏域別】

全体的には、圏域ごとの大きな差はない。



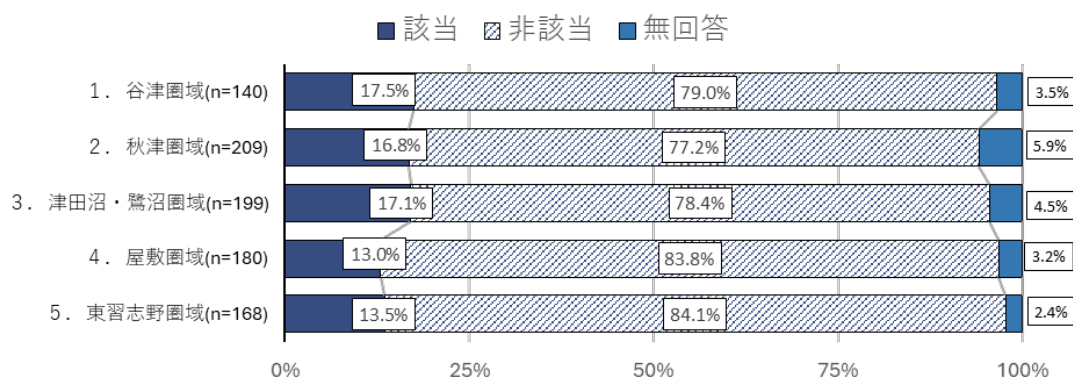
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、圏域ごとの大きな差はなく、全体的に 3%前後に収まっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者の該当者を圏域ごとに見ると、谷津、秋津、津田沼・鷺沼圏域の該当者の割合が17%前後とわずかに高い。



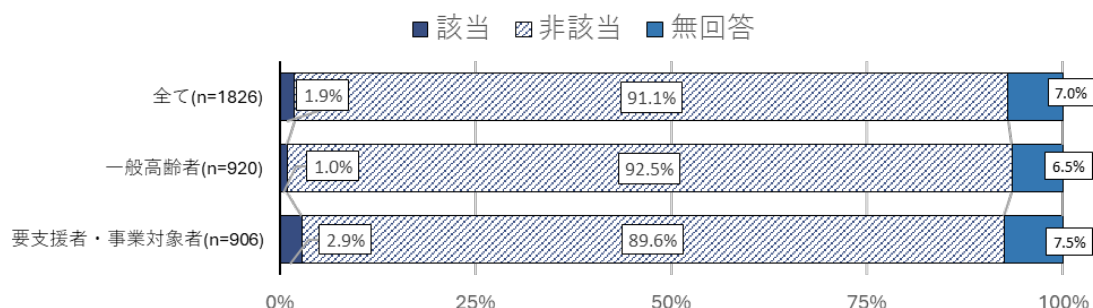
(3) 低栄養の傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を「低栄養傾向」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI18.5 未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	はい

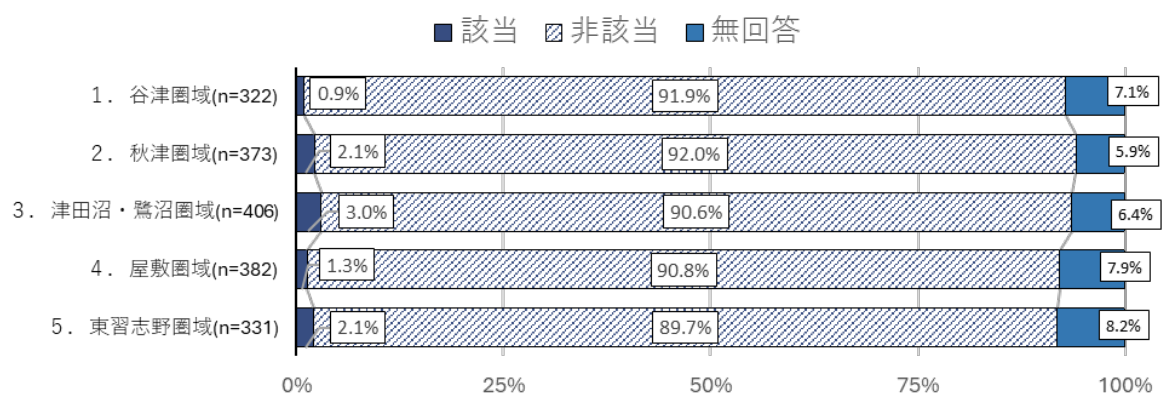
【調査区分別】

全体で見ると、低栄養の該当者は1.9%となっている。区分ごとの大きな差は見られない。



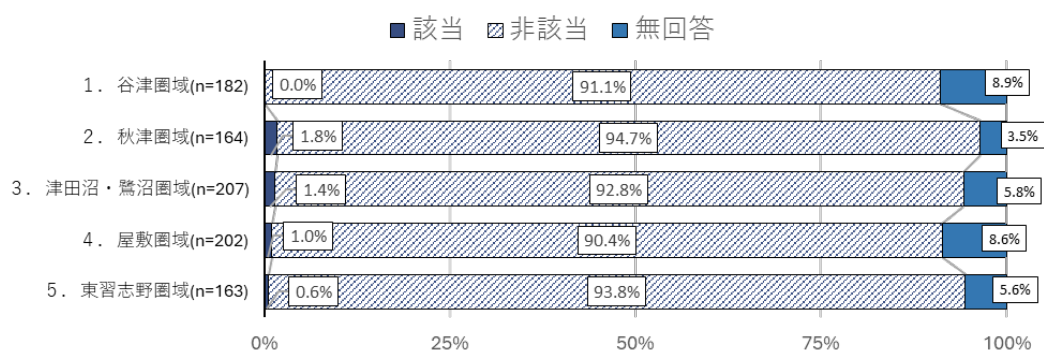
【圏域別】

圏域ごとでの大きな差は見られない。



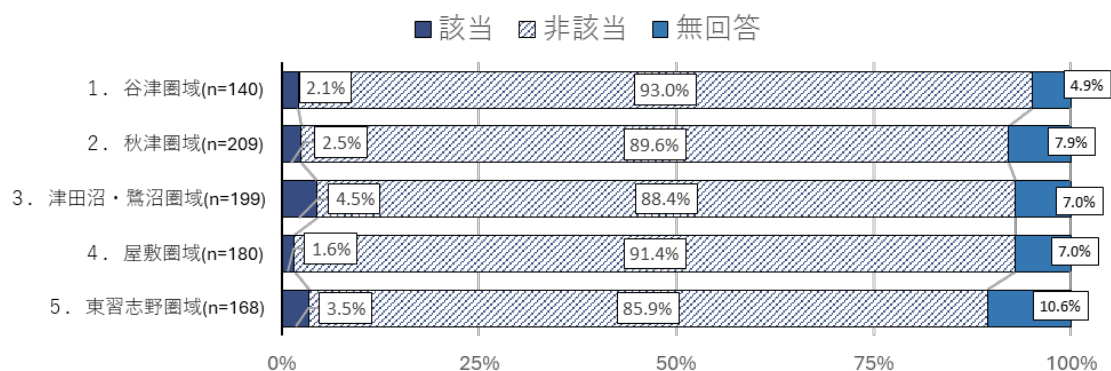
■一般高齢者

圏域ごとでの大きな差は見られず、該当者は2%以内に収まっている。



■要支援者・事業対象者

圏域ごとでの大きな差は見られず、該当者は5%以内に収まっている。



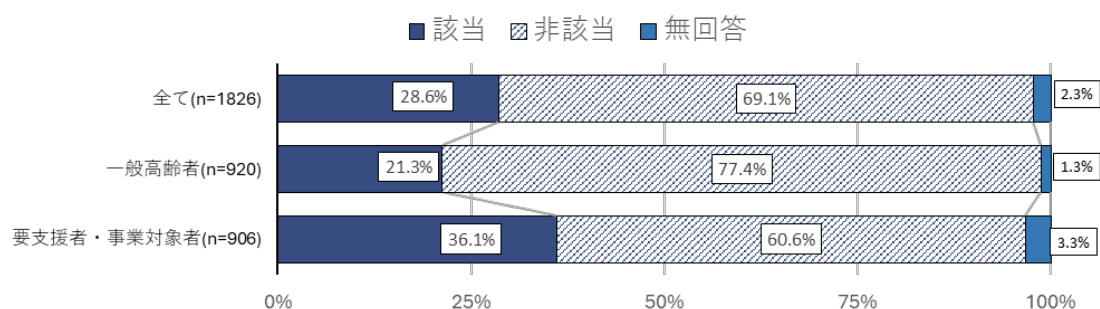
(4) 口腔機能の低下

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を「口腔機能低下」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
口の渇きが気になりますか	はい

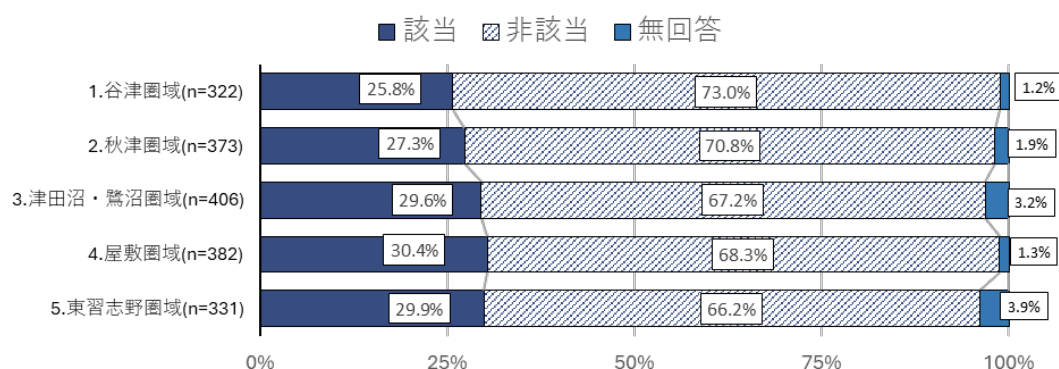
【調査区分別】

全体で見ると、該当者の割合は3割未満だが、調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者では該当者の割合が36.1%と高くなっている。



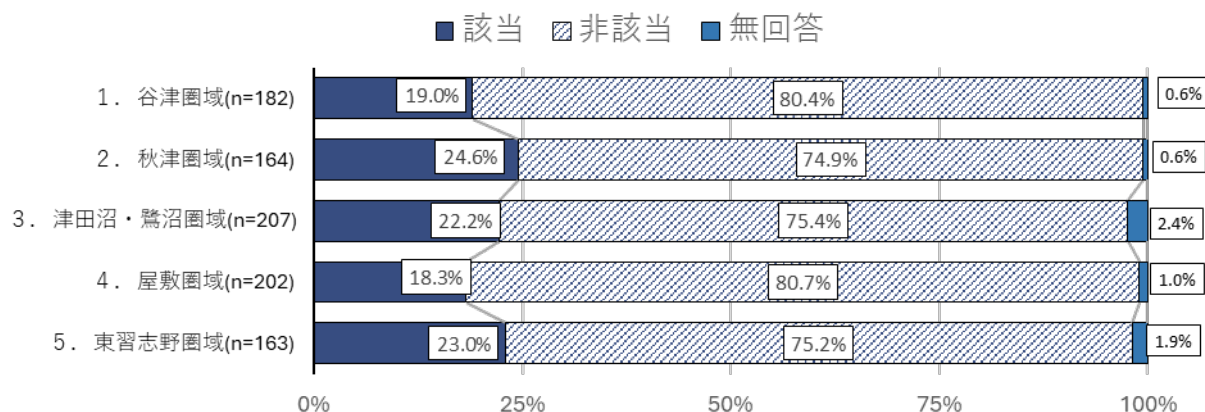
【圏域別】

圏域ごとに見ると、該当者の割合は谷津圏域においてわずかに低いものの、いずれの圏域も3割程度となっている。



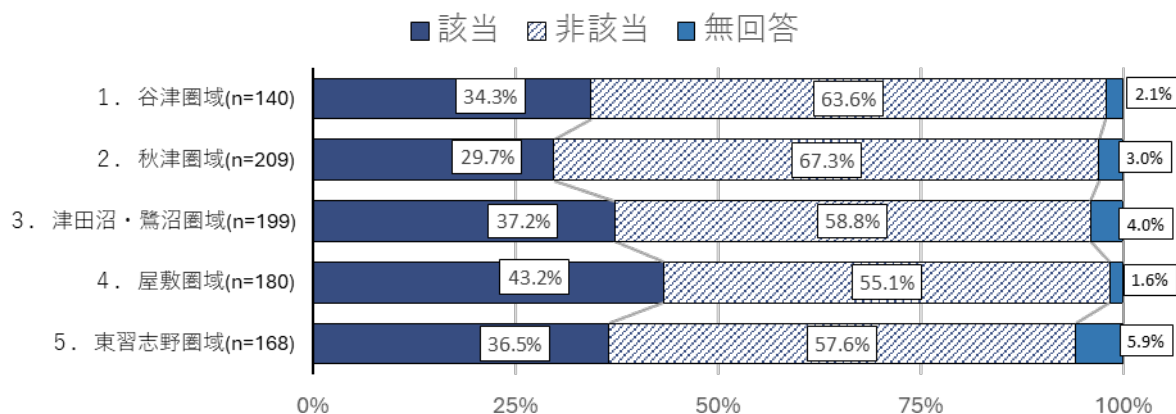
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、大きな差は見られないが、秋津、東習志野、津田沼・鷺沼圏域がわずかに高い。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、該当者の割合はそれぞれ3割～4割程度と大差はないものの、屋敷圏域が比較的高い。



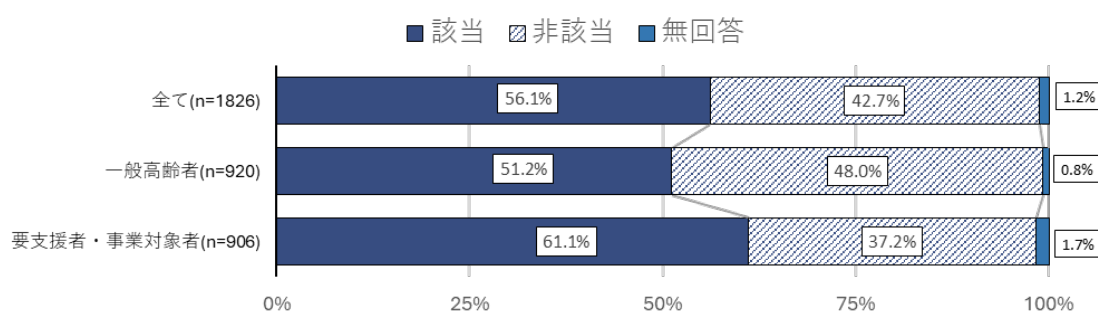
(5) 認知機能の低下

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を「認知機能の低下」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか	はい
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	いいえ
今日が何月何日かわからない時がありますか	はい

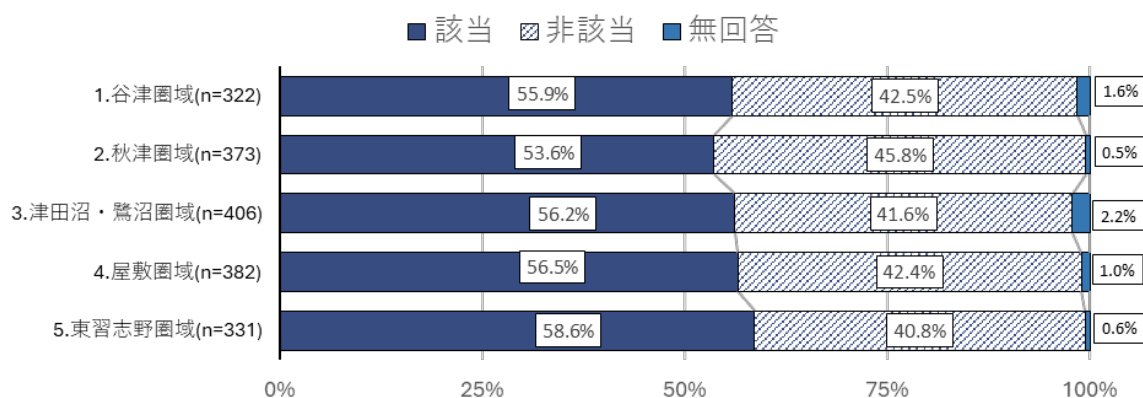
【調査区分別】

全体で見ると、半数以上が該当者である。また、調査区分ごとに見ると要支援者・事業対象者で6割以上が該当者である。



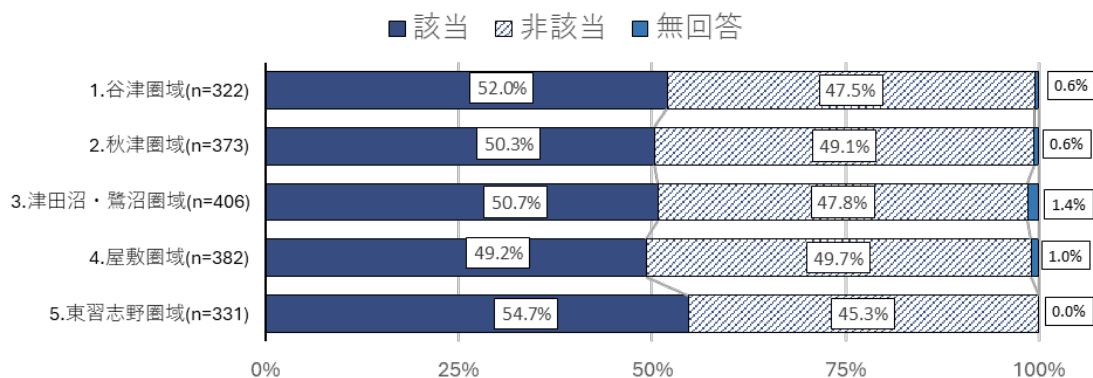
【圏域ごと】

圏域ごとでの大きな差は見られない。



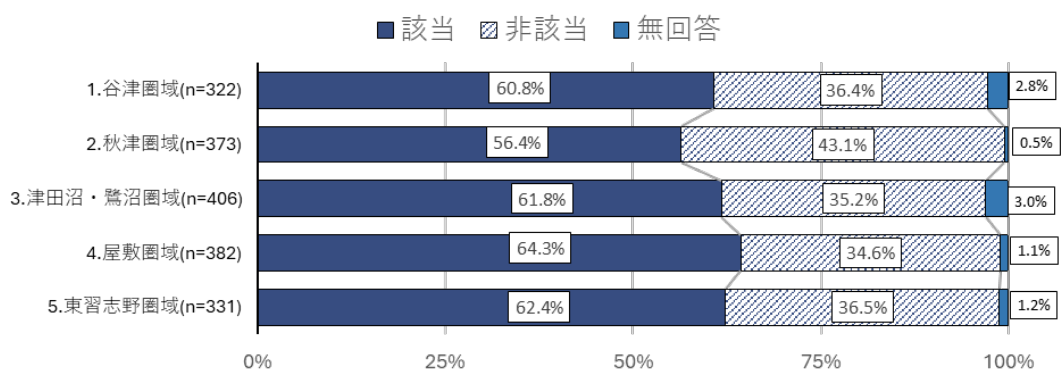
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域の該当者の割合が 54.7%とわずかに高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者の該当者を圏域ごとに見ると、屋敷圏域が 64.3%とわずかに高くなっている。



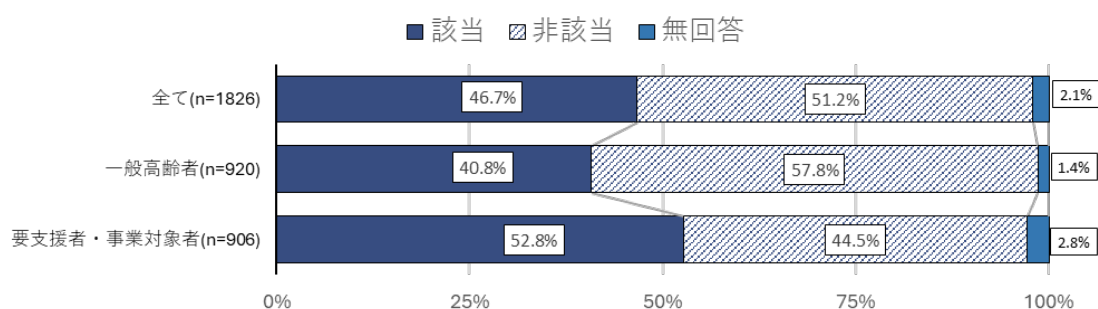
(6) うつ傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のいずれかに該当する人を「うつ傾向」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

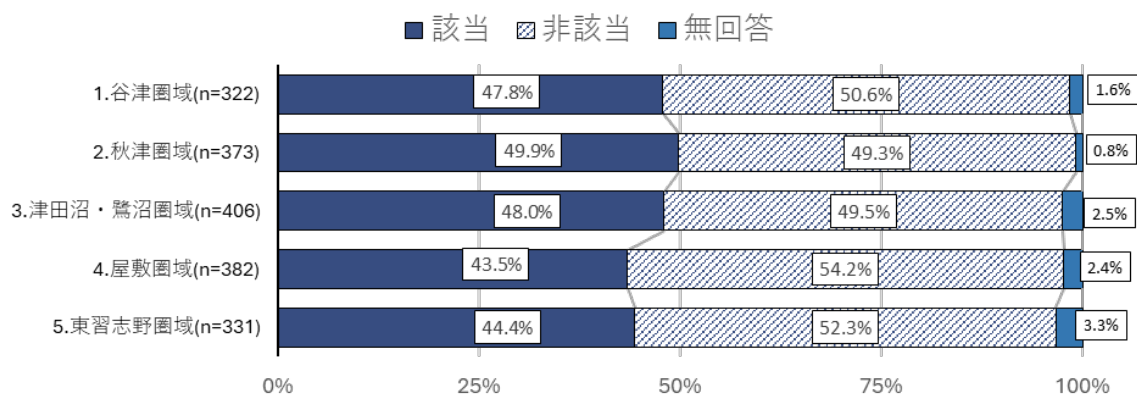
【調査区分別】

全体で見ると、該当者の割合は46.7%だが、要支援者・事業対象者においては52.8%と6.1ポイント高い。



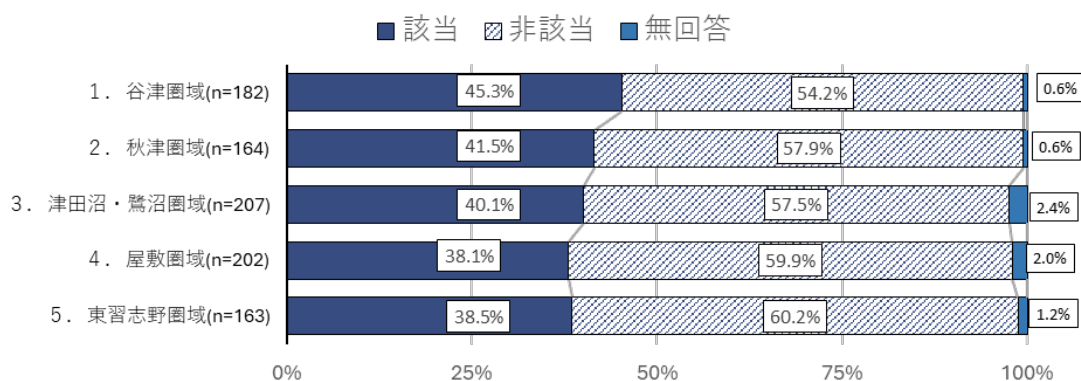
【圏域別】

圏域別に見ると、秋津圏域の該当者の割合が49.9%とわずかに高くなっている。



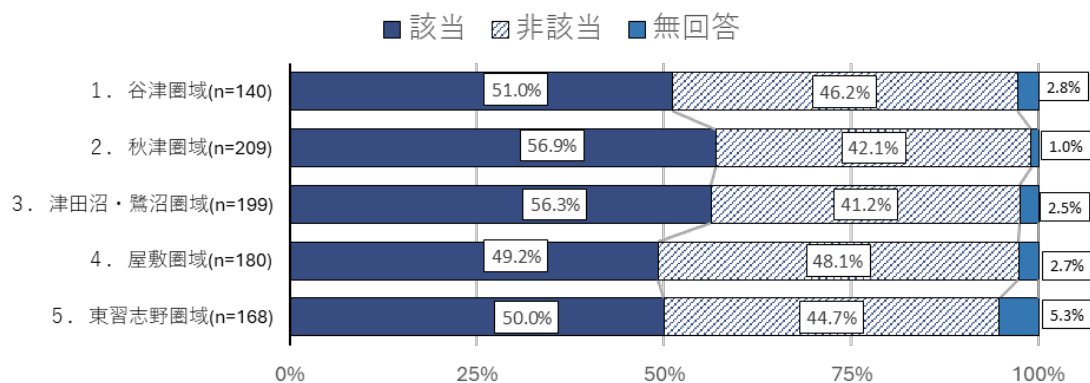
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、それぞれ 40%前後となっており、谷津圏域がわずかに高い。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、該当者の割合が秋津圏域で 56.9%、津田沼・鷺沼圏域で 56.3%とやや高くなっている。



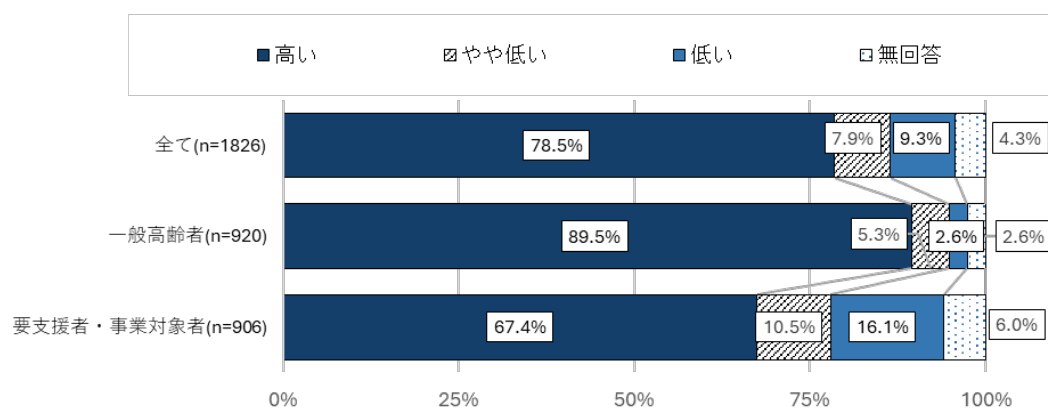
2. 手段的自立度(IADL)

老研式活動能力指標に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力(手段的自立度:IADL)が低下している人の状況を把握する。評価は、以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価し、整理した。

設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で食品・日用品の買い物をしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で食事の用意をしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)

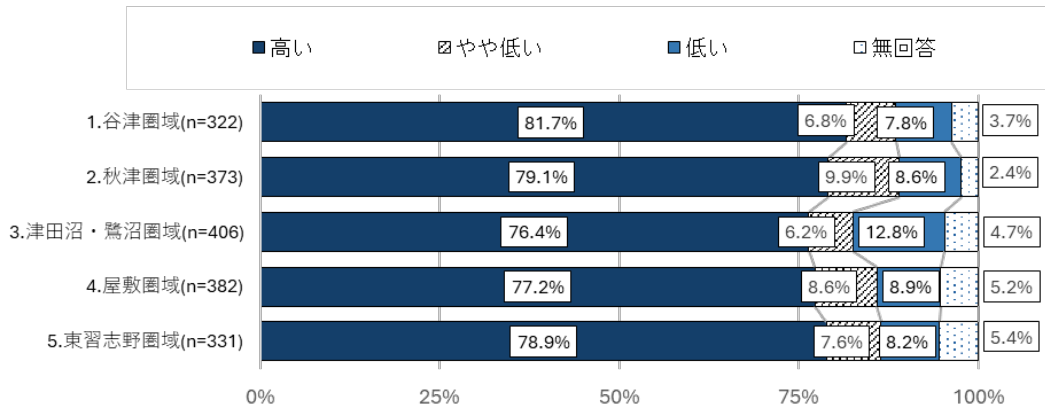
【調査区分別】

全体で見ると低下者(「やや低い」「低い」の計)の割合は17.2%となっている。調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者で低下者の割合が26.6%と高くなっている。



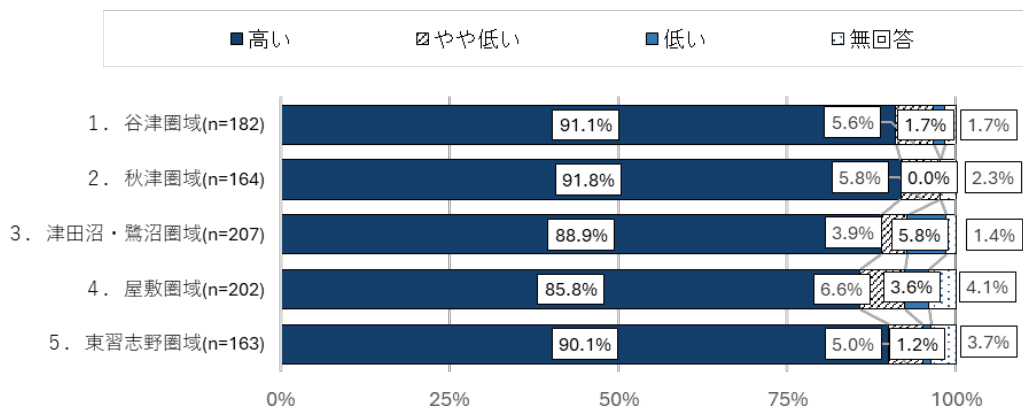
【圏域別】

圏域別に見ると、津田沼・鷺沼圏域の低下者が 19.0%とわずかに高くなっている。



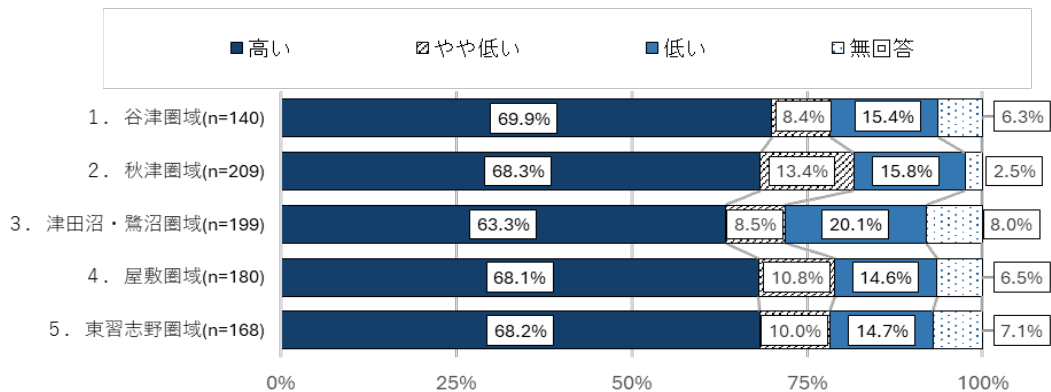
■一般高齢者

一般高齢者では圏域ごとに大差はない。低下者はそれぞれ 1 割程度となっている。



■要支援者・事業対象者

秋津圏域において低下者の割合が 29.2%とやや高くなっている。



3. 社会参加

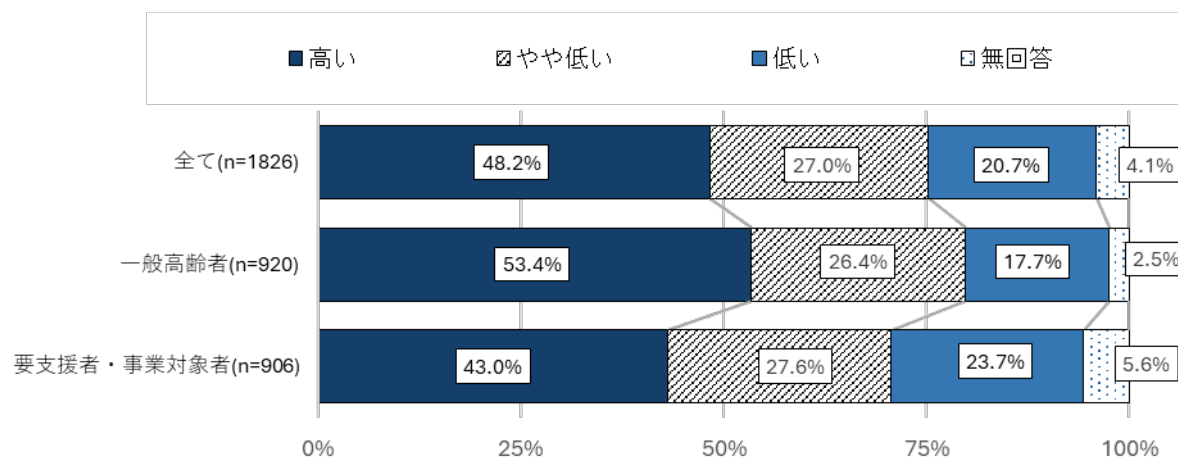
(1) 知的能動性

国の手引きに基づき、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力(知的能動性)の低下している人を把握する。調査票の以下の設問を抽出「はい」と回答した場合を 1 点として、4 点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」として整理した。

設問	該当する選択肢
年金などの書類が書けますか	はい(1 点)
新聞を読んでいますか	はい(1 点)
本や雑誌を読んでいますか	はい(1 点)
健康についての記事や番組に関心がありますか	はい(1 点)

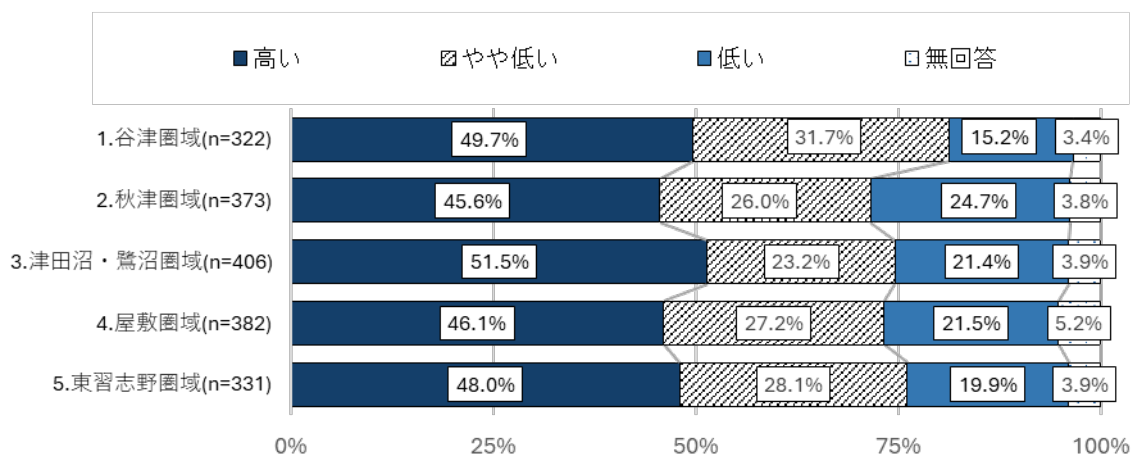
【調査区分別】

全体を見ると、低下者(「やや低い」と「低い」の計)が半数程度である。調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者において低下者が 51.3%とやや高い。



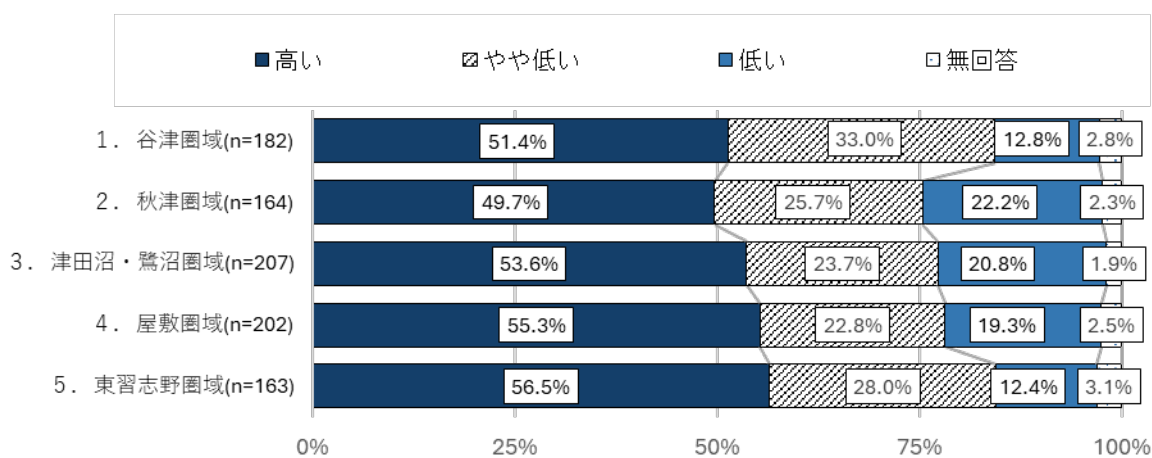
【圏域別】

圏域別に見ると、秋津圏域の低下者が50.7%とやや高くなっている。



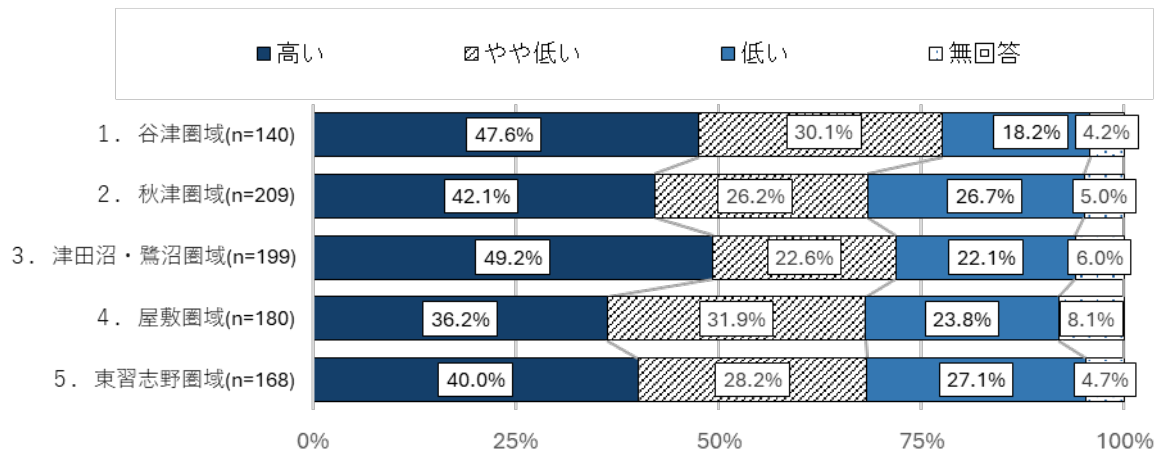
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、秋津圏域において、低下者が47.9%とやや高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域、屋敷圏域の低下者がそれぞれ 55%以上となっている。



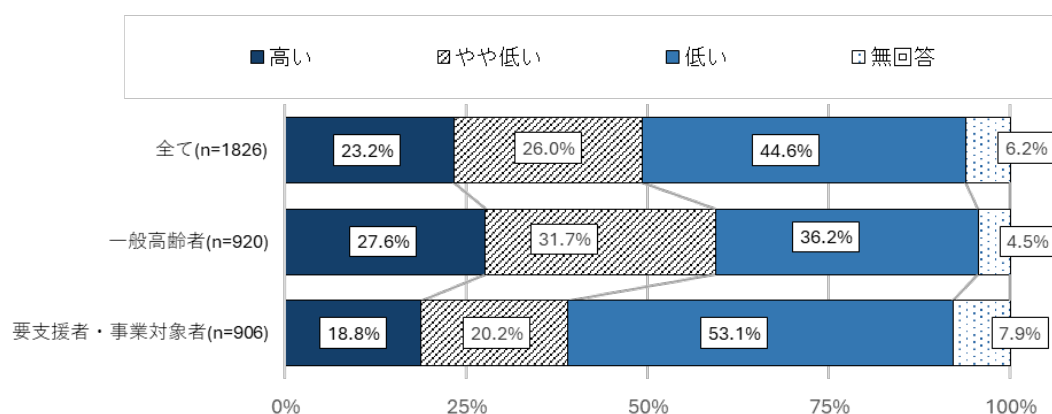
(2) 社会的役割

国の手引きに基づき、地域で社会的な役割を果たす能力(社会的役割)の低下している人を把握する。調査票の以下の設問を抽出「はい」と回答した場合を1点として、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として整理した。

設問	該当する選択肢
友人の家を訪ねていますか	はい(1点)
家族や友人の相談にのっていますか	はい(1点)
病人を見舞うことができますか	はい(1点)
若い人に自分から話しかけることがありますか	はい(1点)

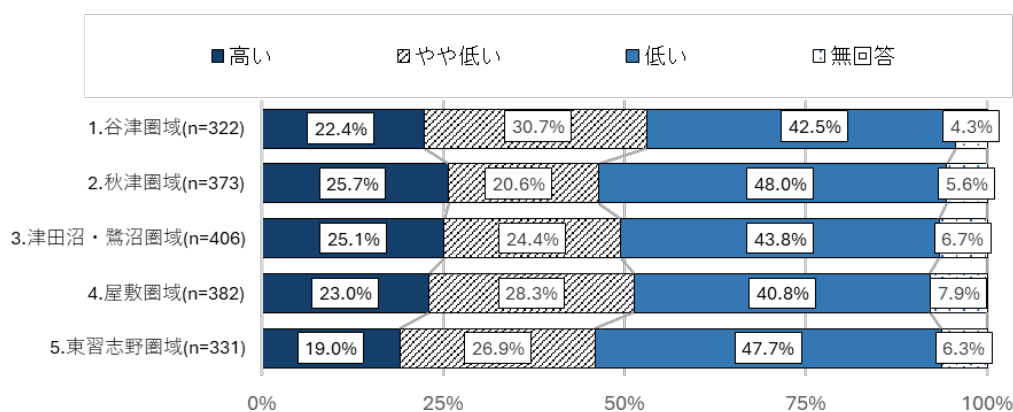
【調査区分別】

全体で見ると、低下者(「やや低い」と「低い」の計)が7割以上ある。要支援者・事業対象者においては73.3%とより高くなっている。



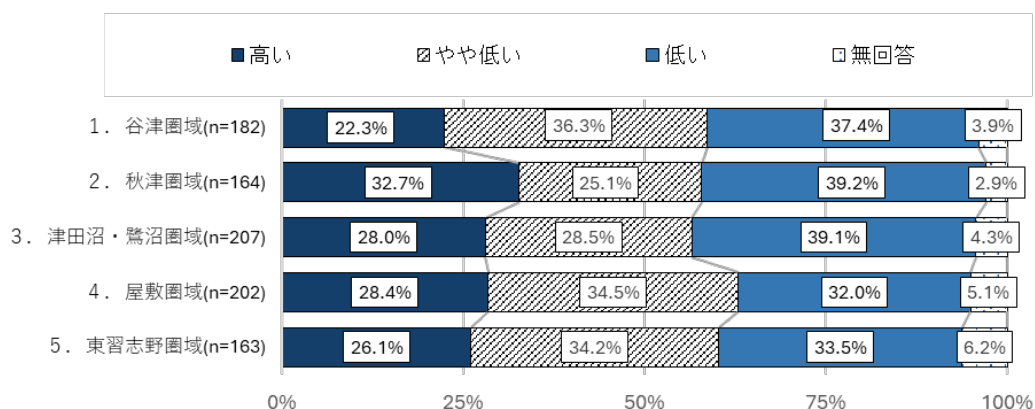
【圏域別】

圏域別に見ると、東習志野圏域の低下者が74.6%とやや高くなっている。



■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、谷津圏域で、低下者が73.7%と高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域で、低下者が81.2%と高くなっている。

